

日本ASEAN友好協力 50周年有識者会議

2022年9月15日

遠藤環(埼玉大学)

アジアの世紀、都市の世紀としての21世紀

【20世紀→21世紀へ】

- 貧困・停滞から、成長・発展(奇跡)、危機、そして、新興アジアへ(再び危機?)
- 「アジア化するアジア」:相互依存、事実上(de facto)の統合、地域としての発展
⇒産業間分業から産業内・工程間分業へ (アジア内の大きな格差&多様性)
⇒世界経済の牽引役として台頭するアジア。先進国を後追いする地域／生産拠点から、中所得国化・イノベーションの中心へ。市場としても台頭
- キャッチアップから、飛び越え型(leap frogging)へ。デジタル化により一層加速。
- ASEANの成長。直接投資受入れ国から投資国へ(cf. 2010年代中旬:タイ、マレーシア)。

【21世紀】:中長期的な諸課題

- 中所得国の罅、格差の拡大、少子高齢化、環境問題、人権問題、など・・・
Cf.「アジアの世紀」の3つの条件(ADB)、'Endangered Asian Century' (リーシェンロン首相、2021年)
- 2020年代の新しい潮流と挑戦:米中対立／デジタ化とサービス経済化、コロナ禍などの諸危機
- 国家、企業、都市 / 住民の福祉(well-being)の向上

圧縮した発展と重層的な構図： 現代アジアを見る視角

● 圧縮した変化と重層的な構造

アジアの特徴：早い変化＋圧縮した発展

⇒ 圧縮した経済発展／社会面でも起こる圧縮した変化
(急激な都市化、発展途上で始まる少子高齢化、
格差、環境問題、など)

ex. 労働市場の特徴

高学歴者・若者の失業問題、スキルミスマッチ、非正規労働の拡大
インフォーマル経済の拡大

3K労働に外国人労働者(例：タイの就労人口の1割に相当：ミャンマー人、
カンボジア人、ラオス人)



上海・浦東新区
(1995/2016)
写真：時事通信フォト提供

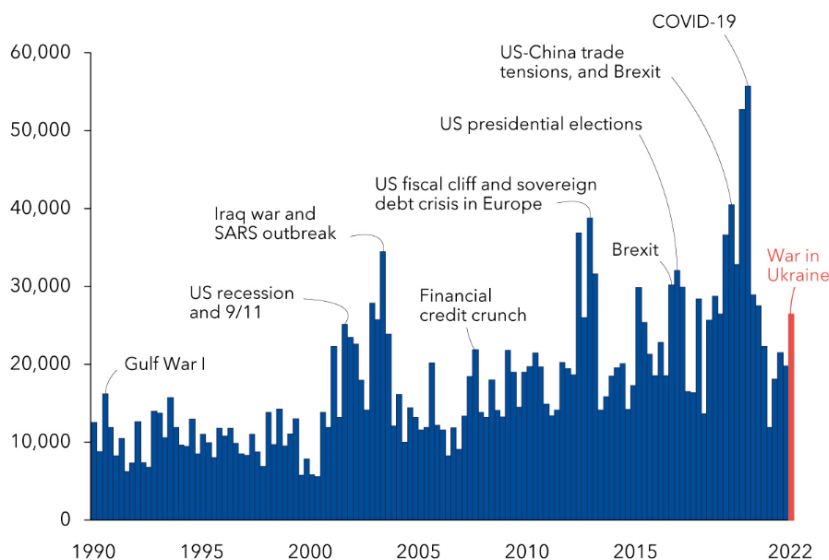
⇒ 先進国型の課題と途上国型の課題に、同時に対応する必要
(先進国に先例がない場合も)。相対的には脆弱な財政基盤。

不確実性の時代のアジア: リスク・危機の管理

Fog of war

The World Uncertainty Index is climbing again as the invasion of Ukraine clouds the economic outlook.

(Index, GDP weighted average)



Source: Ahir, Bloom, and Furceri (2022).

Note: The chart is computed by counting the percent of the word "uncertain" (or its variant) in the Economist Intelligence Unit country reports. The index is rescaled by multiplying by 1,000,000. A higher number means higher uncertainty and vice versa.

IMF

- 経済成長やイノベーションだけでなく、**リスク・危機**のフロンティアに(例:災害)。
- マクロ経済は早期に回復しても、危機の影響は長期に残る。
- 危機の影響は、階層性を持って現れる。また個人・世帯への打撃は、世代を超えて、影響を残す。

3つの価値軸／課題とバランス

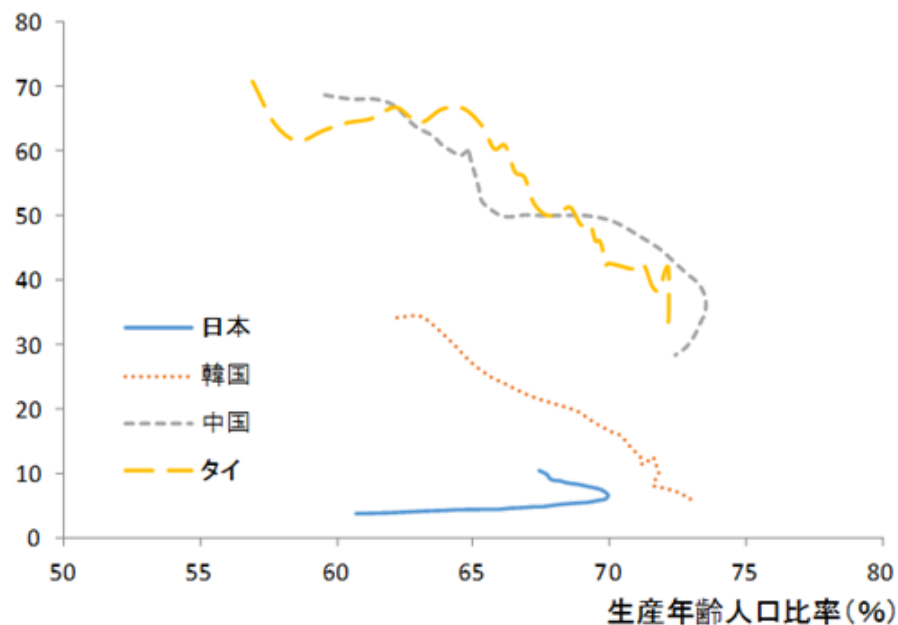
- **経済効率性／成長** （←20世紀は、経済成長を優先）
中所得国の罣、コネクティビティの阻害、GVCにおける「機能の向上 (functional upgrading)、デジタル・サービス経済化
- **持続可能性**
危機の発生源としてのアジア。都市化の環境負荷。脱炭素。
- **公平性**
貧困から格差（＋新しい貧困）へ：公平性を伴った発展（20世紀）から、格差拡大（21世紀）へ。政治の不安定要因？
アジアのジレンマ：**成長促進要因が、格差拡大要因に**。
少子高齢化の進展と社会保障制度の未整備。ディーセント (decent) で安心な老後の生活？ ex. 韓国の試行錯誤

「公平性」の観点からみた 今後のアジア経済・社会 の課題

労働市場の特徴：圧縮した変化の下で

図表1 農業就業人口比率と生産年齢人口比率（1980-2015年）

農業就業人口比率(%)



(出所) World Development Indicators

出所: 大泉、2018a、p.217.

1. 生産年齢人口のピークアウトと高い農業従事者比率

例: タイ (ピークアウト: 2010年)

生産年齢人口 71.8% [69.9%]

農業就業人口 38.2% [6.3%]

*[参照] 日本 (ピークアウト: 1992年)

2. 高い自営業者比率 (2019年)

自営業者 + 無給家族労働者

タイ全国 32.0% + 17.8%

バンコク 20.0% + 6.1% (2019年)

*[参照] 日本 (自営+家族労者)

全国 24.3%(1992年) / 10.0% (2019年)

東京 14.1% (1997年) / 8.5% (2019)

インフォーマル経済、ギグエコノミー

表 9-1 インフォーマル雇用（非農業従事者）

単位：％

地域／国	インフォーマル 雇用（2000）	インフォーマル 雇用 （2009/2010）	インフォーマル 雇用（2016）
アジア	65	－	59.2
（東・東南アジア－中国を除く）	－	65	－
（南アジア）	－	82	－
インドネシア	78	76	80.2
フィリピン	72	70	－
タイ	51	42	－
中国	－	33	53.5
インドネシア	83	84	78.1
北アフリカ	48	45	56.3
サブサハラアフリカ	72	66	76.8
ラテンアメリカ	51	51	49.0

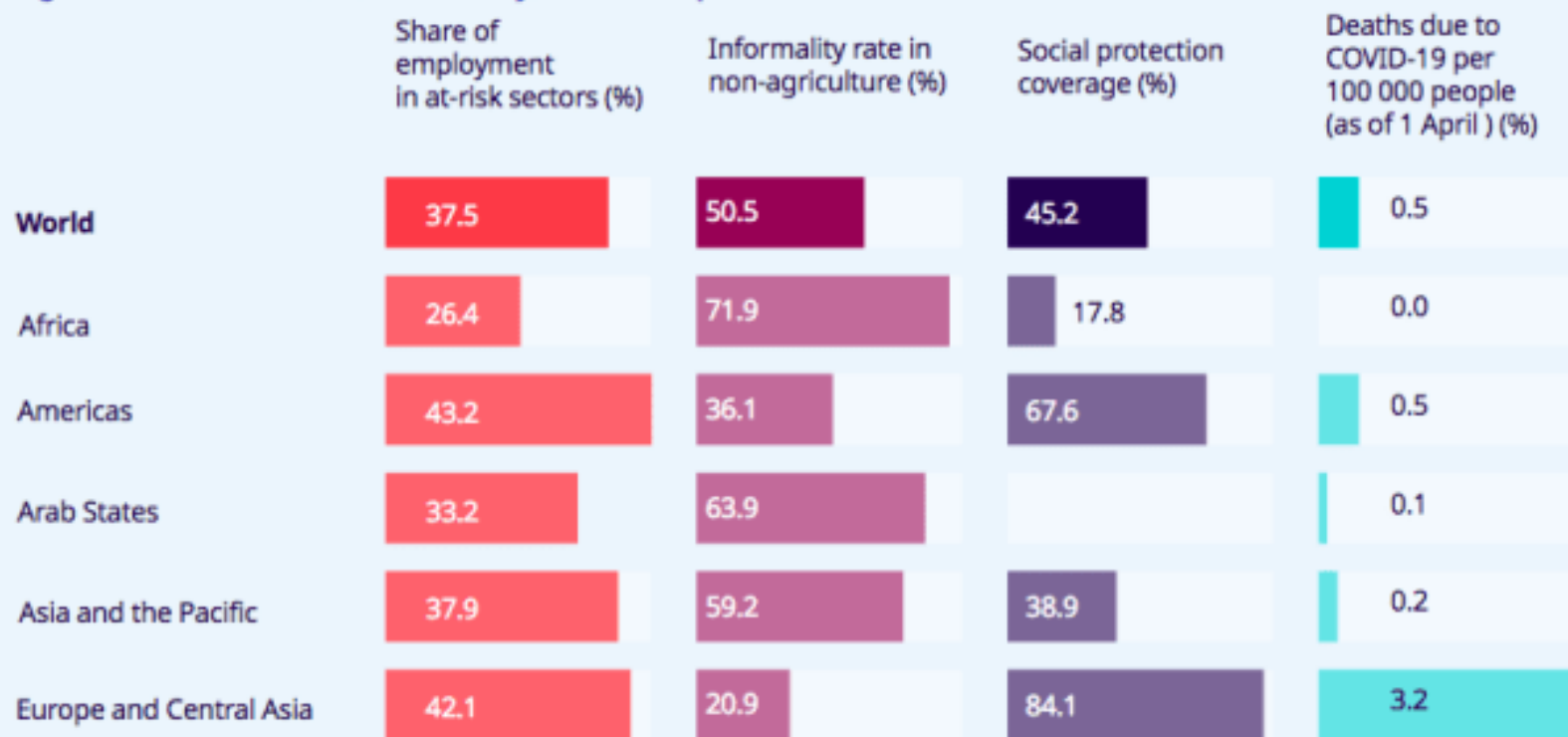
出所：Endo and Goto, 2020, p.176.

元出所：ILO（2002）, Vanek et al.（2014）, ILO（2013）, ILO（2018）より作成。



コロナ禍、インフォーマル経済、社会保障

► Figure 2. Workers at risk, informality, and social protection



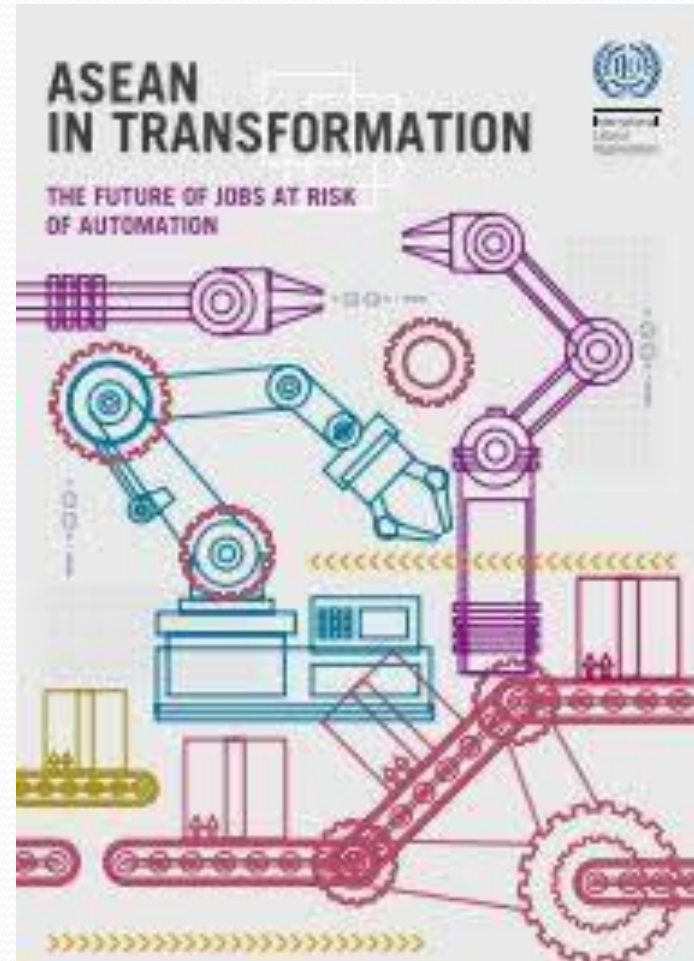
Note: Sectors considered at high risk of disruption are accommodation and food service activities; manufacturing; real estate, business and administrative activities; and wholesale and retail trade, repair of motor vehicles and motorcycles.

Source: ILOSTAT, ILO modelled estimates, November 2019; ILO, *World Social Protection Report 2017-19*; ILO, *Women and men in the informal economy: A statistical picture*, Third edition; and European Centre for Disease Prevention and Control.

被雇用労働: ILO (2016)

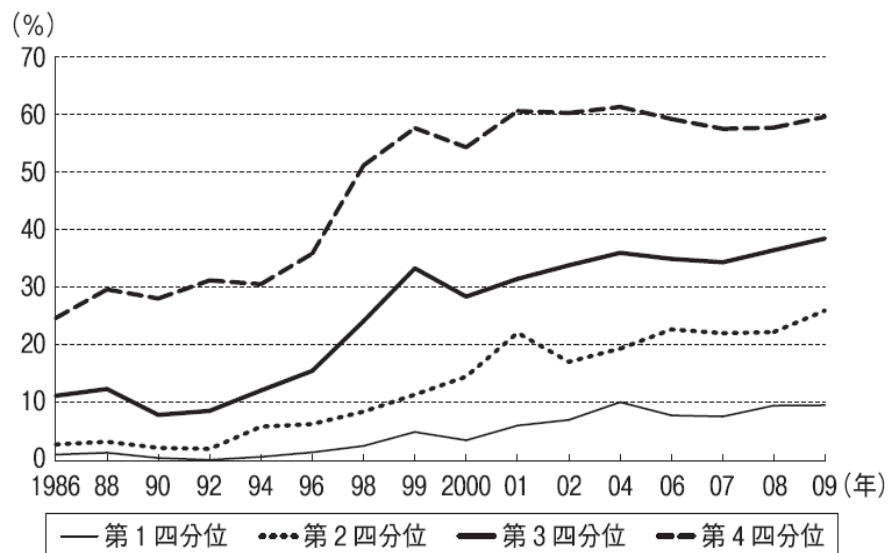
【オートメーション化による雇用リスク】

- ASEAN5 (カンボジア、インドネシア、フィリピン、タイ、ベトナム) における全雇用の約56%が、技術発展により10~20年の間に代替されるリスクが高い。
- タイ 高リスクの雇用 (44%)、中位リスク (41%)、低リスク (15%)



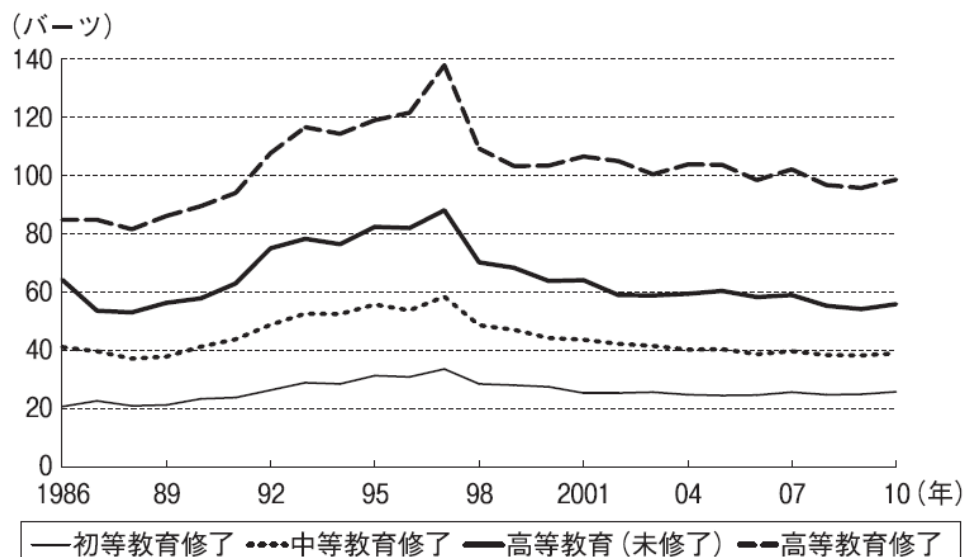
階層間で固定？社会上昇？

(a) 所得階層別に見る短大・大学の進学率の推移 (1986～2009 年)



(出所) Pasuk and Baker eds. [2016] p. 45.

(b) 学歴集団別に見る実質賃金 (時給, 1986～2010 年)



(注) 2009 年価格。

(出所) Pasuk and Baker eds. [2016] p. 48.

浦川・遠藤「不平等化するアジア」『現代アジア経済論』(有斐閣、2018)
図11 - 5 学歴による集団間の格差(タイ), p.247

外国人労働者：(タイの事例)

外国人労働者：約300万人(合法)がミャンマー、カンボジア、ラオスから。就労人口の約1割に相当。近年は、半分以上がバンコクメgalリージョンに集中。

- 【写真削除】

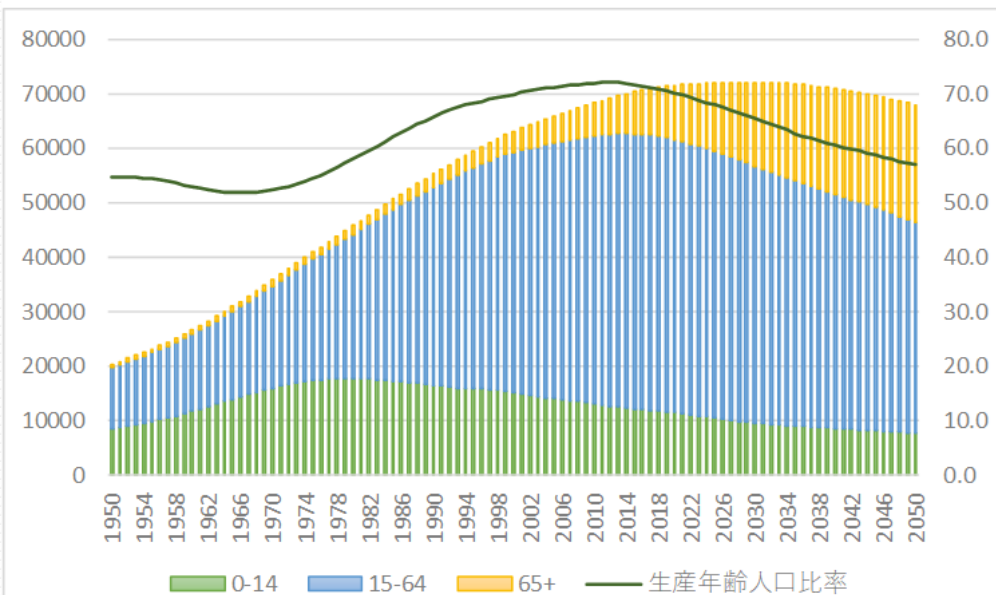
ゴミ分別所で働くミャンマー人(上)、建設現場のコンテナハウス(右)(2019年11月撮影).

カンボジア人労働者の居住するクロントイ・スラム内の貸家(右)(2019年8月撮影).

少子高齢化、社会保障

図2 タイの人口動態（2022年からは中位予測値）

単位：千人（左）、％（右）



出所：United Nations, World Population Prospect, 2022.

表 10-5 アジアの社会保障制度の分類

	社会保障制度		経済発展段階		人口動態	
	現状	課題	所得水準	産業構造	人口構成	都市化
第1段階 (ラオス, カンボジア, ミャンマー)	公務員(軍人を含む)のみ	民間企業被雇用者への拡張	低所得	農業部門多い	出生率の低下が始まる	農村社会
第2段階 (ベトナム, フィリピン, インドネシア)	公務員・民間企業被雇用者	自営業者・農業従事者への拡張	低・中所得	工業化最中	出生率の急速な低下	農村社会から都市社会への移行期
第3段階 (マレーシア, タイ, 中国)	自営業者・農業従事者への拡張	全国民をいかに対象内に取り込むか	高・中所得	工業の高度化	出生率が低水準に。高齢化が徐々に加速	メガ都市の先進国化
第4段階 (日本, 韓国, 台湾, シンガポール)	全国民を対象	高齢化への対応と公平な配分の実現	高所得	サービス化	少子高齢化が加速	都市社会

(出所) 筆者作成。

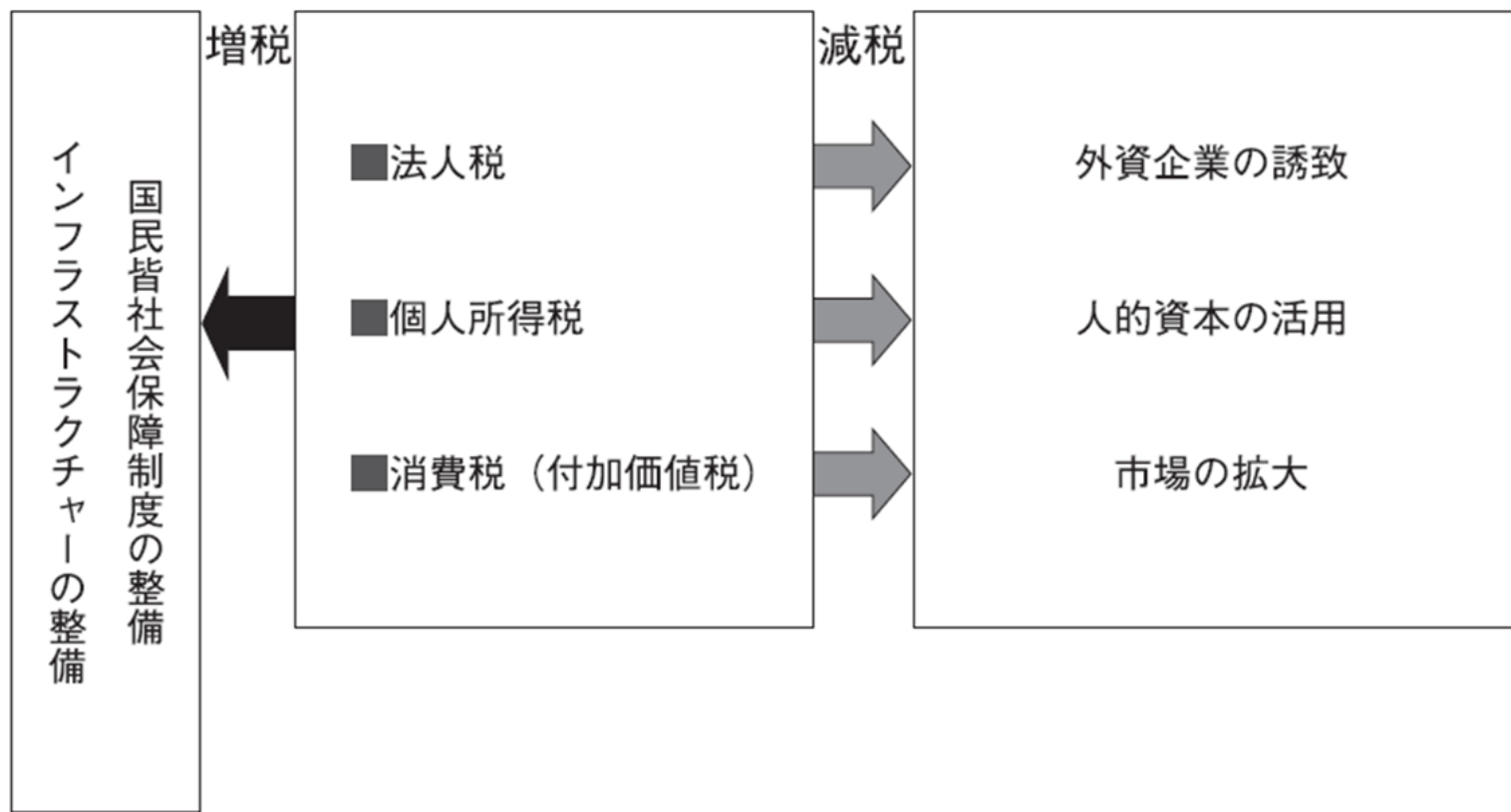
出所：大泉(2018)『現代アジア経済論』、p.223

政策的ジレンマ

図 8-7 政策のジレンマ

格差の是正

都市の競争力強化



(出所) 筆者作成。

遠藤・大泉「都市化するアジア」『現代アジア経済論』（有斐閣、2018）

図8-7 政策のジレンマ, p.178

アジアの未来に向けて

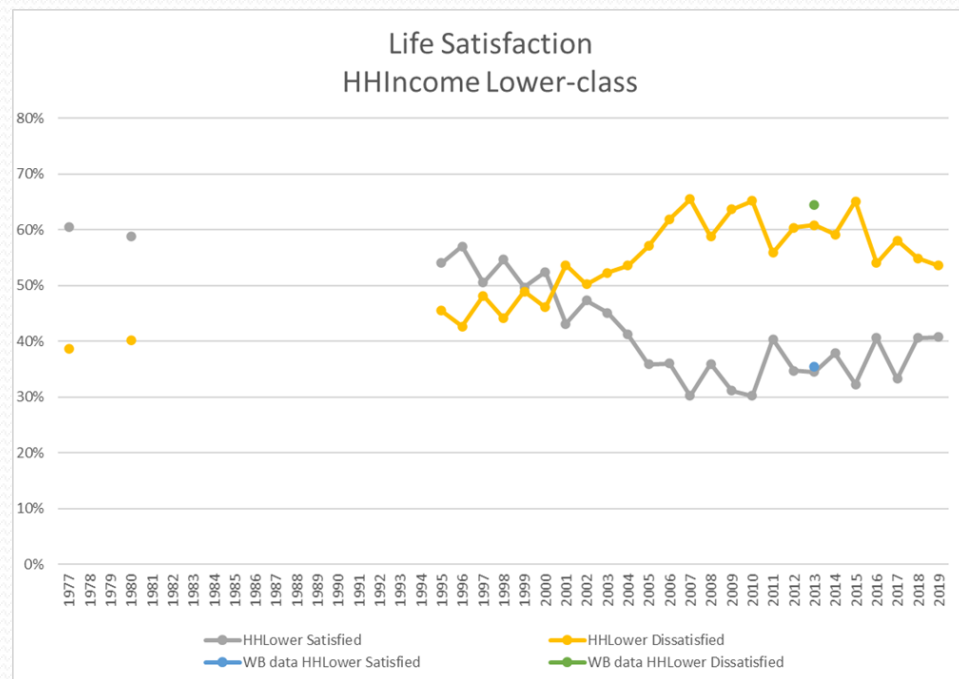
岐路に立つアジア：アジアの不確実な未来を共に生きる

- 経済から政治の時代へ？
- 社会構造の変化が経済を規定する時代にも突入。
- 「学びあうアジア」
 - 21世紀型の圧縮した変化、複雑で重層的な構図。
 - 先進国のかつての経験から「解」を導き出せるとは限らない。地域で共同して新しい「解」を見つける必要。
- 政策的、研究的課題: 3つの価値軸のバランス
 - 格差、環境問題、都市問題、少子高齢化、財政・税制（デジタル課税含む）、ビジネスと人権、民主主義、・・

課題先進国／大国としての日本

- 「課題先進国」日本という意味は、日本には、まだどの国も解決したことのない課題が山ほどあるということである。**エネルギーや資源の欠乏、環境汚染、ヒートアイランド現象、廃棄物処理、高齢化と少子化、都市の過密と地方の過疎の問題、教育問題、公財政問題、農業問題**など、解決しなければならない課題が山積している」
(小宮山 2007『課題先進国日本』より)

- 半面教師としての日本？
(2000年代における生活満足度の低下)



東京都：下層定義(世帯年収300万円未満)
Satisfied=「大変満足」「やや満足」の合計
Dissatisfied=「大変不満」「やや不満」合計

出所：Imaizumi, forthcoming.
元出所：『都市生活に関する世論調査』(1977～97)、『都民生活に関する世論調査』(1998～2019)。

人々のwell-beingの向上を目指して

- 市井の人々が、豊かでより安心して暮らせるアジアの未来とは？
- ビジネス共同体を超えて：「共生のための競争」
- 人々の顔の見える関係／人々の福祉(well-being)の向上
⇒人々の生活基盤への影響は、国内要因だけでなく、外的要因からももたらされる時代。異なるニーズ、利害をいかに調整するか。
- 諸アクター間の多元的な協同の新しい在り方の模索。
- 世代間ギャップ。若い世代の参照基準＝「今」
2020年代、2030年代の若者の未来設計とは？
- 日ASEAN学生会議：アジアの未来を担う主体として